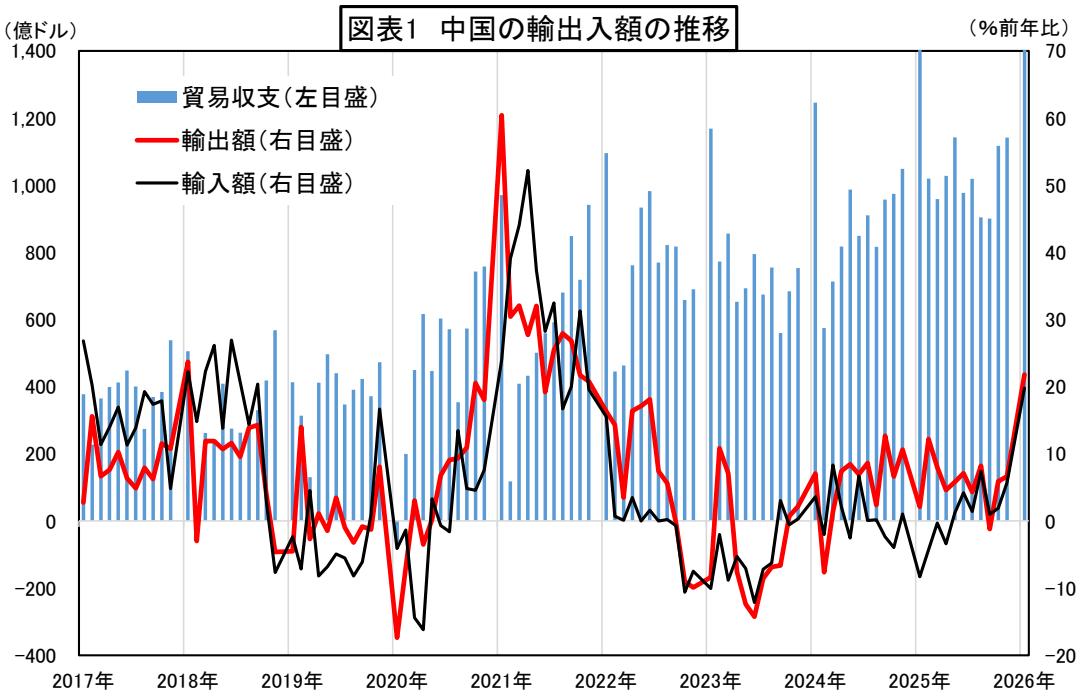
リサーチ＆ソリューション第１部　王雷軒

（中国）26 年初の輸出入は予想以上に堅調

2026 年 3 月 10 日に中国税関総署が発表した貿易統計によると、1 月と 2 月の輸出額（ドル建て）はそれぞれ前年比 10.0%、39.6%となり、春節（旧正月）時期のずれの影響もあって 2 月は高い伸びとなった。1～2 月合計では前年比 21.8%と、25 年 12 月（同 6.6%）から大きく加速した（図表 1）。

図表1　中国の輸出入額の推移

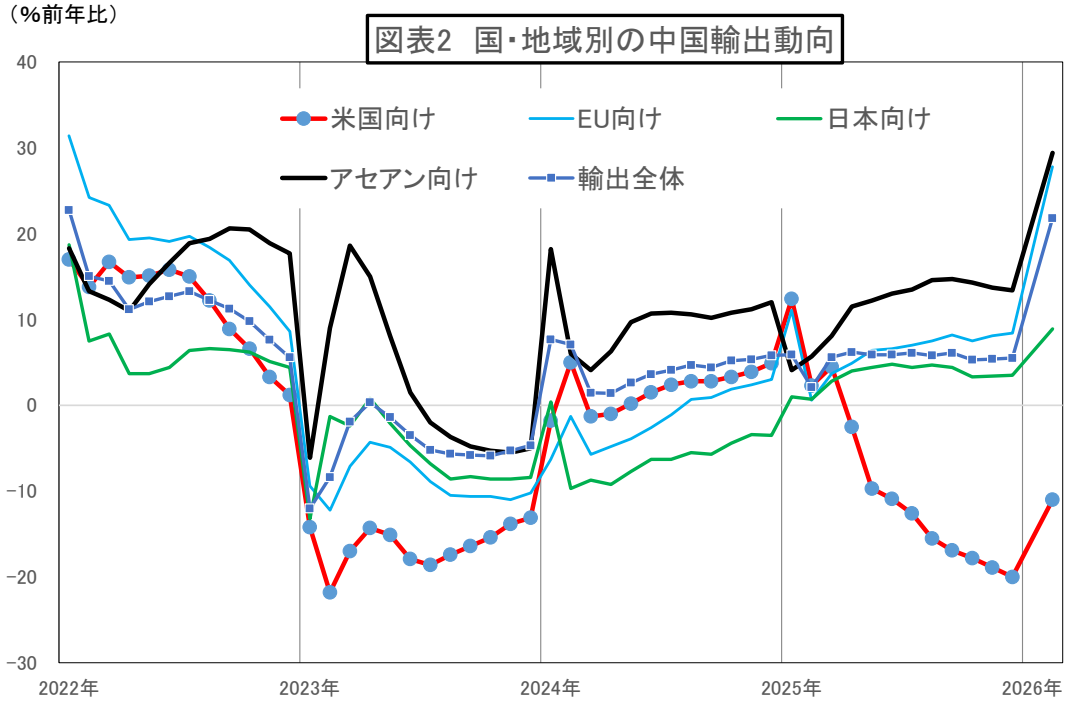


（資料）中国税関総署、Windより作成、直近は26年1～2月期。

春節連休前の駆け込み輸出があったことに加え、世界的な AI 投資ブーム（半導体やデータセンター設備の需要）や国内製造業の高度化を背景に、高付加価値の資本財・中間財である集積回路（IC、同 72.6%）、自動車（シャシーを含む、同 67.1%）、船舶（同 52.8%）の輸出が大幅に増加し、1～2 月の輸出全体を支えた。さらに、年初の外需が比較的強かったことも輸出全体を押し上げた。中国物流・購買連合会によれば、1 月と 2 月のグローバル製造業 PMI はそれぞれ 51.0、51.2 と、拡張局面を維持した。

一方、中国の対米輸出は高関税の影響などにより低迷が継続している。1～2 月の対米輸出は前年比▲11.0%となり、25 年（同 20.0%）からマイナス幅は大きく縮小したものの、前年割れが続いている（図表 2）。他方、米国以外の輸出は底堅さを維持している。アフリカ、ASEAN 向けはそれぞれ同 49.9%、 29.4%と大幅に伸びた。また、EU、ロシア、インド、ラテンアメリカ向けはそれぞれ同 27.8%、22.7%、22.0%、16.4%と、いずれも大きく増加した。日本向けも同 8.9%と 4 か月連続のプラスを維持した。ただし、米国以外の主要国・地域では、日本向けの伸びは小幅にとどまった。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/



（資料）中国税関総署、Windより作成、直近は26年1～2月期。

これらを踏まえると、中国の輸出が堅調に推移している背景には、輸出先の多角化、製品競争力の向上、外需の回復などが挙げられる。ただし、春節時期ずれの反動減が予想されるため、3 月の輸出は鈍化する可能性が高い。輸出全体を評価するには、1～3 月期全体の動向を総合的に判断する必要がある。

総じて、26 年初の輸出は予想を大きく上回る好調なスタートとなったが、今後の輸出には、地政学リスクが大きな不確実性として残る。2 月末以降、中東情勢の急激な悪化により、原油や鉱物価格の乱高下、物流コストの上昇が輸出の下押し要因となる。また、米中関税摩擦の再燃リスクもあり、3 月の輸出は前年比 5%前後へと鈍化すると予想される。

とはいえ、政府や業界による過度な値下げ競争の抑制を意味する「反内巻」政策のさらなる推進により、輸出価格の下落に一定の歯止めがかかる可能性がある。また、前述した輸出先の多角化や製品競争力の強化などの要因により、輸出全体は引き続き強じん性を保つと見込まれる。

1～2 月の輸入についても、春節期間の旺盛な消費などを背景に需要の持ち直しが見られ、前年比 19.8%と25 年 12 月から大幅に加速した。鉄鉱石は同 10.7%と輸入増に大きく寄与したほか、機械電気製品と高技術製品の輸入はそれぞれ同 24.0%、27.7%と増加した。とくにデータ処理装置と集積回路はそれぞれ同 68.7%、39.8%と急増し、AI 関連投資の拡大がこれらの輸入を押し上げている。一方、原油、天然ガス、石炭、大豆は減少した。輸出額（6,566 億ドル）から輸入額（4,430 億ドル）を差し引いた貿易黒字は 2,136 億ドルとなった。

今後については、輸出の緩やかな鈍化や、中東情勢の影響によるホルムズ海峡の通行制約リスクがあるものの、3 月の輸入は前年比 3%前後と見込まれる。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/